

■今一生の虐待防止策の講演会 カンタン運営マニュアル

① 今一生まで「地元で開催したいです」とメール

今一生のアドレス (conisshow@gmail.com) まで、いつごろ、どこのもちで虐待防止イベントをやりたいのかを相談。自己紹介もよろしくね！

② 無料通話アプリの Skype(スカイプ)あるいは LINE をダウンロード

スカイプでは「con-isshow」の ID を検索し、僕(今一生)へ連絡する。

Facebook でもビデオ通話ができるので、FB 内を「今一生」で検索し、友達申請でメッセージを送る(※メッセージのない友達申請は受け付けていない)。

LINE ユーザは、以下の QR コードで友達申請を。

スマホのアプリにもあるので、早めにダウンロードしておこう。



③ いっしょに開催を運営する仲間を公募する

スタッフは入場無料で入れるようにする。イベントの広報活動の手間を考えると主催者を入れて3人以上のスタッフを集めたい。

当日だけでもスタッフになってくれる人がいるなら、講演やイベントの様子をビデオ

や写真の撮影をする方と、受付スタッフの計 2 名を確保したい。

どちらも、このイベントをやりたいと思った時点から SNS を通じて公募したり、仲の良い友人に声をかけたり、これを機会に同窓会名簿を探してみてもいい。

また、イベントに参加したい人の中から公募すると見つけやすい。

ブログを書いている人なら、「〇〇(地名)で虐待防止イベントをやろうよ！」というタイトルの記事を書いて、問い合わせのメールアドレスを公開し、SNS で拡散する。

ブログがない場合でも、facebook や twitter などを行っているなら、「〇〇(地名)で虐待防止イベントをやろうよ。スタッフ急募！」と書いて拡散し、1~2 人の仲間を公募する。仲間が 1 人でも増えると心強いし、がぜんヤル気も出てくる。

(※もちろん、リーダー=主催者を募集してもいい)

SNS で拡散する場合、より多くの人に知ってもらえるよう、開催地の地名や「**#親への手紙**」「**#こどものいのちはこどものもの**」「**#わたしたちでもできること**」などのハッシュタグをつけておこう。

④ 格安 or 無料で借りられる場所を探す

金・土・日・祝日の午後～夜の時間帯で 2 時間だけ借りられる場所を探す。

パソコンに接続できるプロジェクター、スクリーンが利用でき、マイクもあって、50 席～100 席ほどあれば十分。

(※開催日を現時点より 2 ヶ月以上先に設定すると、30 人以上の集客が容易になる)

市立の公民館や会議室、イベントのできるコ・ワーキングスペース、カフェなどを探してみよう。候補リストを作り、予約方法を確認し、いつでも予約できる準備をしておきたい。

2017 年、札幌では男女共同参画センター「**エルプラザ**」にあたりをつけた。72 名まで入れる中研修室が料金表を見ると、会場費 4400 円+備品使用料 3400 円だった。

⑤ 全体のコスト(経費)を計算する

北海道民が札幌エルプラザを利用する場合、

会場利用費 7800 円(※会場利用料はどこでも 1 万円程度)

+配布・設置用のチラシ印刷費 2000 円程度(※[ラクスル](#)参照)

+今一生のギャラ 10 万円(千葉～札幌の往復交通費・宿泊費などを一切含む)

総計で約 11 万円。

もっとも、チラシ配布設置のための交通費や、主催者グループの打ち合わせ飲食費などをすべてレシートで記録し、後日精算すると 1 万円ぐらいはかかるだろう。

この時点で 12 万円程度がかかる計算になる。

⑥ 運営資金を調達する

12万円の経費を調達する方法には、以下の方法がある。
どれか一つを決めて進めてもいいし、いくつかの方法を組み合わせてもいい。

A:クラウドファンディングを利用する

FAAVO という地元密着型のクラウドファンディングで12万円を集めるには、20%の手数料を後払いすることになるので、15万円を目標額にする。

この金額なら、1か月もあれば目標額に達成できる。

いざクラウドファンディングのページを開設した後は、3万8000人のtwitterフォロワーがいる今一生が毎日拡散に協力するし、All in方式を選べば、目標金額に達しなくても、集まった額面の8割が支給される。

出資者への対価の内容や、寄付を募る文章内容などは、今一生が相談に乗る。

ただし、年内開催のためにクラウドファンディングを利用する場合は、9月中に寄付サイトを設けても11月末までの資金調達となるため、急いで申し込む必要がある。

11月末から会場を予約しても、イベント広報には1か月は必要なので、12月末の開催になるからだ。

B:地元の企業にスポンサーをお願いする

入場料の平均が1500円だったとして、40人動員した場合、6万円の収益になる。

12万円以内のコスト内で開催するなら、不足分は6万円になる。

もっとも、12万円をまるまる地元の有名企業にスポンサーになってもらう方が、当日の入場を無料にできて動員しやすくなり、その企業の社員にも参加を誘える。

大企業の支社でもいいし、地元で有名な老舗の店でもいい。子ども向けの商品(おもちゃ・服・ベビー用品など)を扱う会社でもいいし、大きな寺でも、進学塾でも、スーパーでもいい。

地元の自治体が主催してきたこれまでの大型イベントに協賛として名を連ねている地元企業があれば、それらの企業も有力な候補になる。スポンサーになってくれた法人に公式サイトがあれば、そこへのバナーリンクをイベント告知するブログと[今一生のブログ](#)に1年間だけ表示するという対価を示すといい。

県内の企業や寺院、塾などのサイトを検索し、メールで打診してみよう。

スポンサー候補のリストができたのに、どんなメールを書いているかわからないときは、今一生が代筆しよう。

C:イベント告知ブログで先に寄付を募る

当日必ず 40 人以上を動員できるように広報に動き、平均 1500 円の収益を見込む(=総収益 6 万円~)なら、残り 6 万円が不足分になる。

この程度の金額なら、イベント告知ブログに主催者の振込口座を公開して寄付を集めた方が早い。1 か月もかからずに不足分に達するし、それ以上の額面の寄付も見込めて当日の収益が 6 万円を下回った時の備えにもなる。

(※もちろん、10 月末頃までの約 2 か月間で 12 万円以上の寄付を目標にして集めれば、入場無料にできるし、参加者を集めやすくなる)

この方法を採用する場合、今一生のギャラ(宿泊費・交通費込み)の 10 万円のうち、5 万円を先払いしてくれるのを条件に 9 万円に値引きする(残り 4 万円は当日手渡し)。

すると、寄付目標が 6 万円の場合、残り不足分は 5 万円。

寄付を集める文章も今一生が代筆できるし、今一生の twitter やブログでも寄付を呼びかけるので、この方法が一番カンタンかもしれない。

ただし、寄付目標が 6 万円の場合、当日必ず 40 人以上を動員できるよう、地元の新聞社プレスリリースを送ったり、チラシを病院やカウンセリングルーム、学校などさまざまな場所に設置する広報活動に力を入れる必要は出てくる。

動員が不安な場合、「目標金額の 6 万円を超えても開催前日まで応援の寄付を受け付けます」とあらかじめイベント告知ブログに書いておくといいたろう。

D:組織的な動員を準備し、100 人の入場者を作り出す

当日の入場料だけで 12 万円以上を作り出すために、あらかじめ組織的な動員を呼びかける。この場合、100 人の入場者を目標にすれば、一人あたり平均 1500 円で 15 万円の収益を見込めるが、当日のドタキャンによる減収リスクに備え、実際には 12 万円に到達させて赤字にならないようにしたい。

それには、先に 100 人が入れる会場をあらかじめ予約し、地域にあるさまざまな団体に声をかけ、一つの団体あたり 10 人単位の事前予約をとりつけたい。

たとえば、自分が卒業した小中学校に連絡して生徒や PTA(保護者会)から 10 名限定で参加者をまとめてもらう。同様に、大企業の支社には 20 名限定で参加者を社内でまとめてもらう。同じ要領で、大手スーパーやコ・ワーキングスペース、生協、高校・大学、NPO センターなど所属人数の多そうな団体に話を持ち込み、〆切を決めて 100 人の予約に達するまで予約者リストをメールで受け付ける(※個人名は当日受付で必要になる)。

予約〆切は、イベント開催日の 1~2 週間前が望ましい。予約者は 500 円引きとし、事前に 10 人単位でまとめて主催者の口座に振り込んでもらい、当日は予約なしでも一般市民が割引なしの入場料で入れるようにしておこう。

それで想定以上に収益が生まれたら、イベント終了後のお茶会に参加する人の飲食費に充当させればいい。

この方法の場合、3人以上のスタッフを調達し、それぞれが同時に団体へのアポのメールをし、団体を訪問してイベント広報チラシ持参で交渉する。その手間や交通費がかかるので、収益が出たらスタッフ間で分配してもいいはずだ。

⑦ 入場料の額面を設定する

- 0円 小学生以下
- 1000円 中学生
- 1500円 15～18歳(※学生証を提示)
- 2000円 19～22歳(※大学生など学生のみ)
- 2500円 23歳以上

一見高いように見えるが、事前メール予約で当日500円引きにしておけばOK。

一人あたり平均1500円の収益で、40人以上集まれば、6万円になる。

12万円以上の寄付を集められれば、入場料を無料にもできるし、入場料の収益を運営スタッフで分配してもいい。

(※分配する場合、寄付を集める際に明言しておこう)

⑧ 会場に正式に予約を入れる

日時と会場の候補をスカイプ(or LINE) & メールを使って今一生と打合せする。

日時と場所が決まれば、仮予約→本予約→事前精算(会場費の先払い)。

仮予約の際は、任意の団体名を考え、名付けておく。

札幌では、「札幌 AC2017」と名付けた。

団体名で申請すれば、市内の公共施設の予約がネット上でも容易にできる。

これで日時と会場が決定するので、今一生はイベントチラシを独自に PDF([参考リンク](#))で作り、ネット上からダウンロードできるようにする。

同時に、[ブログ記事](#)で紹介し、SNSで拡散。PDFチラシには、問い合わせ先として現地の主催者のメールアドレスを公開するので、イベント問い合わせ用のメールアカウントを準備しておく。

(※gmailを利用すると、これまで使っていたメールアカウントへ自動転送させることができるし、アカウントも複数取得できる)

また、今一生はその土地のNHKや新聞社、ラジオ局などにイベント広報のためにプレスリリース(報道資料)を送付する。交通チケットや宿の手配などは、今一生側でやる。

⑨ 市の「後援」をとりつける

市としての「後援」をお願いし、一つでも了承を得られたら、今一生へメールで知らせる。

後援は市役所の受付で問い合わせ、チラシ持参で担当課を紹介してもらうといい。児童福祉課や市民活動課、社会福祉協議会、青少年課などが紹介されるはずだ。なるだけ多くの後援をとりつけたい。

後援がつくと、一般市民の関心が高まり、参加者を増やしやすい。同時に、同じ市役所の「市民だより」編集部にも足を運び、「催し」の欄にイベント情報を載せてもらうよう、PDF チラシを渡して交渉する。

⑩ 入場者を増やすために、広報活動を行う

イベント告知のブログ記事を、twitter や facebook など日々拡散する。mixi の関連コミュニティへ書き込んだり、facebook ページを新設するなど、情報拡散できるところには、どんどん書き込もう。地域の主催者としてのブログ記事も作ってほしい。

今一生から提供される PDF チラシは、ネットプリントで印刷&コピーし、現地の主催者の生活や仕事で移動する際、無理のない範囲で設置・配布する。

自分の通勤している職場、卒業した学校、公民館、市役所、文化センター、ライブハウス、会場付近のカフェや病院(精神科・心療内科)、虐待関連の NPO など、設置可能なところに足を運ぼう。

地域の FM 局やローカル新聞社、地域情報誌などへ PDF チラシを持参しても OK。

⑪ 当日は、本番 30 分前に会場で集合

プロジェクターをセットし、主催者が持参するノートパソコンと接続する。

施設では、プロジェクターとパソコンをつなぐコネクターを常備しているかをあらかじめ確認しておこう。

机を並べ、今一生から USB メモリを受け取ってパソコンに接続し、プロジェクターの投影を確認してから受付を開始。受付開始後、ビデオカメラの位置も決める。

講演会 60 分 + 「親への手紙」朗読 30 分 + 質疑応答 30 分で 2 時間を構成。
(※時間配分や内容は、現地の主催者との話し合いで変更あり。朗読はスタッフがやってもいいが、イベント告知の段階で参加者から「親への手紙」を公募し、朗読を条件に 2 名まで入場無料にしてもいいかもしれない)

当日、今一生 & Create Media の著作物を持参した方には、もれなくサインします。

⑫ 終了後は、近隣のカフェでお茶会も開催

イベントで集まって終わり、ではつまらない。

2017 年、イベント終了後にお茶会をセッティングしておいたら、お茶会で親交が深まり、そこから新たに被虐待の経験者によるお茶会が開催されたり、『[日本一醜い親への手紙 そんな親なら捨てちゃえば？](#)』の朗読会を開催する人が出てくるなど、新しい活動が地元で芽吹き始めた。

だから、事前に店を予約しておきたいところ。できればタバコが吸えて、少なくとも 10 人がいつ行っても、まとまった席が取れそうな喫茶店を下見して、値段も確認しておきたい。

イベント告知ページでも、終了後に会場付近でイベント参加者どうしによるお茶会もあることを伝えておこう。オフ会の参加予約はあらかじめ 10~20 名ほどに限定し、イベント自体の参加予約メールをもらった時、その返事でオフ会に参加したいかどうかを尋ね、予約者リストを作っておき、最初に示した限定人数に達したら店を予約する。

【備考】

以上、わからないことや不安なことがあれば、そのつど僕(今一生)と話し合いをしよう。

「イベントなんかやったことないからなあ」という人でも、「開催してみたい！」と思ったら、気軽に[メール](#)で問い合わせしてほしい。

「イベント開催はできないけど、広報を手伝いたい」という方や、ネット上で「誰か地元の〇〇市でこども虐待防止の講演会を主催してくれませんか？」と呼びかけたい方は、このブログ記事をあなた自身のブログや twitter などで拡散してほしい。

主催者・リーダーに手を上げるのは気が引けるけど、誰かが主催者になってくれたらスタッフになりたいという人も、気軽にメールしてほしい。

「とりあえずスタッフにはなりたい」というメールをもらえれば、Twitter でその地方のリーダー志願者をこちらで公募する。しつこく公募していると、必ず 1 人、また 1 人とスタッフ志願者は集まる。

1 人でも増えると心強いので、スタッフになりたい人は自分のブログで「〇〇県で子ども虐待防止策の講演会を開催したい！」という記事を書いて、SNS で拡散してほしい。拡散の際は、「#親への手紙」というハッシュタグをつけておくと、こちらで発見しやすいので、早めに拡散に協力できる。